

しろかき地蔵さま

ずっとむかしのことです。いつ頃かよくわからないが五、六百年は前のことでしょう。

布川の竹の内、堰場、若、あのあたりに余り家がなかった頃です。赤井堂の前の道を一人のおばあさんが歩いてると、田んぼの中で子どもたちが大ぜい集って、地蔵様の首をひもでしばって、苗代かきをするように引きずり廻して遊んでいました。おばあさんはそれを見てびっくりしてしまつて、急いで子供たちに向つて『これ、これ、お前たち^{!!}とんでもないことするんでねえぞ。そりやあ有難い地蔵さまだよ。そんなことしたらばちがあたるべえよ。早くわしによこしな…』といつて子どもたちより地蔵さまをとり返しました。

『お地蔵様、大へんすまんことをしました。わしに免じて、子めらのことを許しても』とあやまりました。子どもたちは地蔵さまを取り上げられて、がっかりしました。夕日は西に沈んで、子どもたちもみんなおうちに帰りました。おばあさんも地蔵さまをきれいに洗い直して自分の家に帰りました。するとその晩から地蔵さまをころがして遊んでいた子どもたちがみんな熱を出しました。どこが痛むわけでもないが熱が下らないし元気がないので、親たちはみんな心配しました。そこで占いをする人をたのんで聞いてみました。ところが占いをする法印さまに地蔵さまの霊が乗り移つていうには『わしは子どもたちと一緒に遊んで、ほんとうにうれしかった。もっと遊びたかったのに、おばあさんに取り上げられてしまつて遊べなくなつて、がっかりしているんだ。そこで、もう一度子どもたちと遊べるようにしてくれたら、子どもの熱がさがるだろう』というのでした。このことを聞いて部落の人たちは、早速おばあさんの処へ行つてそのことを話し、子ども